

# 令和5年度 高速道路調査会 研究発表会(東京)プログラム

開催日：令和5年8月8日(火) 10:30~16:40

開催場所：星陵会館ホール (東京都千代田区永田町 2-16-2)

**EHRF** 公益財団法人 高速道路調査会  
EXPRESS HIGHWAY RESEARCH FOUNDATION OF JAPAN

項目	時間 [ ]内は 質疑応答	時間帯 [ ]内は質疑応答
<b>1. 調査研究事業報告</b>		
公益財団法人高速道路調査会	0:15	10:30~10:45
<b>2. 研究発表</b>		
(1)東京農業大学 地域環境科学部 教授 橋 隆一 氏 <b>高強度の降雨イベントに対応する斜面緑化技術に関する研究</b>	0:45 [0:05]	10:45~11:30 [11:30~11:35]
近年の高強度の降雨イベントの増加は周知の通りであるが、他方、生物多様性保全を考慮した緑化工へのシフトは必須の状況で、斜面緑化においても侵食防止機能と生物多様性保全機能の両立が一層求められている。そこで、生物学的土壌クラストを早期に形成し土壌被膜として表面侵食防止を期待する工法に着目し、現地実験を行った。使用植物には外来牧草のほか在来の草本等も選定した。これらの施工後、微生物性を含めた土壌分析や土壌クラスト形成後の撥水性等を調査したので、報告する。		
【休憩】		
(2)前 横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 大学院生 池谷 風馬 氏 <b>ドライバーの異質性による運転行動の差異に関する研究</b>	0:45 [0:05]	12:35~13:20 [13:20~13:25]
高速道路上で追従挙動などの車両挙動に変化が起きていることが指摘されており、それを明らかにするための研究が行われている。本研究では、ドライバーの異質性によって運転行動が変化すると仮定し、アンケート調査よりドライバーの運転負担感の違いを、ドライビングシミュレータ実験よりドライバーの運転行動の違いを分析した。分析結果より、運転負担感が高い人ほど渋滞時の反応時間が早くなるなど、ドライバーの異質性によって運転行動が変わることを示した。		
【休憩】		
(3)名古屋大学大学院 工学研究科 土木工学専攻 准教授 判治 剛 氏 <b>き裂進展シミュレーションによる鋼橋に生じた疲労き裂の進展予測</b>	0:45 [0:05]	13:30~14:15 [14:15~14:20]
鋼橋の高齢化や少子高齢化に伴う技術者不足が進むなか、たとえ疲労き裂が発生しても、その後の進展により致命的な状態に至らないように管理する、というき裂管理の考え方も重要となる。そのためには、き裂の進展性に関する定量的な評価や情報が不可欠である。本発表では、シミュレーション技術を用いて、溶接継手や実橋に生じたき裂の進展性に関する検討を行い、今後の維持管理に資するき裂進展性状に関するデータの蓄積を試みた結果を報告する。		
【休憩】		
(4)公益財団法人高速道路調査会 研究第一部 <b>諸外国における AET および走行距離課金の導入状況に関する調査研究(その2)</b>	0:35 [0:05]	14:35~15:10 [15:10~15:15]
諸外国では、電気自動車や省エネ車の普及によって、道路整備の主財源である燃料税収入が減少するため、走行距離課金への転換を検討している。また、新型コロナウイルスのパンデミックにより、料金收受時の接触による感染を防ぐため、従来から進んでいた料金收受のキャッシュレス化(All Electronic Tolling, AET 化)が加速している。 このような背景のもと、諸外国における AET および走行距離課金の導入に向けての検討状況と論点を把握し、日本の高速道路料金制度への参考とすることを目的とした調査研究について、昨年度に発表を行った「総論」に引き続き、今年度は主に「諸外国の AET および走行距離課金の導入状況」などについて報告する。		
(5)公益財団法人高速道路調査会 研究第二部 <b>高速道路で培われた技術の歴史を伝承する取り組み～高速道路の橋梁技術史～(その2)</b>	0:35 [0:05]	15:15~15:50 [15:50~15:55]
日本で初めての高規格道路として開通した名神高速道路の建設から 60 余年、この間、高速道路の建設を通じて培われた技術は、高速道路の管理だけでなく、一般道路の建設・維持管理にも広く活用されている。 (公財)高速道路調査会では、過年度より継続的に高速道路の技術の歴史に関する調査研究を続けてきた。 昨年度に発表を行った「総論」に引き続き、今年度は、「コンクリート橋」や「鋼橋」などの「高速道路の橋梁技術史」の概要について報告する。		
(6)公益財団法人高速道路調査会 研究第二部 <b>高速道路等における大型車長時間駐車対策に関する調査研究(中間報告)</b>	0:35 [0:05]	15:55~16:30 [16:30~16:35]
各高速道路会社では、慢性的に混雑している高速道路の SA・PA の大型車駐車マスの改善策として駐車マスの増設を進めているが、増設しても他の車両が集まってきており、大幅な改善効果が発揮されていない。また、ドライバーの休憩・休息に対する法的な罰則が強化されたことなどにより、高速道路 SA・PA での駐車時間が長時間化していることも混雑の要因となっている。 これらの背景を踏まえ、高速道路 SA・PA の混雑解消など、これからの高速道路休憩施設等利用のあり方について研究を開始し、大型車長時間駐車の実状や背景の整理、SA・PA の利用のされ方の確認、今後の課題解決に向けた方向性や方策などについて検討を行ったので報告する。		
<b>3. 閉会挨拶</b>		
公益財団法人高速道路調査会	0:05	16:35~16:40

●CPD/CPDS の「受講証明書」を配布します【リアル開催限定】会場受付にて、希望者へのみ配布

土木学会 CPD 認定プログラム(4.4 単位) / 全国土木施工管理技士会連合会 CPDS 認定プログラム(4 ユニット)

●TOP/TOE-CPD 認定プログラム(受講証明書配布無し、各自申請)

一般社団法人交通工学研究会認定プログラム、項目 CO1.(1)として各自 CPD 単位数を申請できます。



## オンデマンド配信のご案内

配信期間：令和5年8月17日～8月30日(予定)

- ・本研究発表会の内容について、アーカイブ動画配信を行います。  
配信期間初日に、メールにてオンデマンド配信についてご案内します。  
※CPD 認定プログラムの対象外です。

項目	
<b>1. 調査研究事業報告</b>	
公益財団法人高速道路調査会	リアル開催 録画
<b>2. 研究発表</b>	
(1)～(6)	リアル開催 録画
<b>【オンデマンド配信限定プログラム】</b>	
<b>2. 研究発表</b>	
(7) 日本大学 経済学部 計量経済学専攻 教授 行武 憲史 氏 高速道路整備が周辺地域に与える影響に関する実証分析	オンデマンド配信のみ(約 45 分)
日本では、効率的な社会資本整備が求められ、その評価に注目が集まっている。従来のインフラの整備の評価は事前評価中心であり、事後評価については十分に行われてこなかった。本研究では、新名神高速道路整備を例として、道路整備が経済や環境に及ぼす影響の事後評価分析を行った。今回は整備による混雑解消と周辺の大気環境の関係についての実証分析を紹介する。分析では、道路整備により国道周辺の大気環境が有意に改善し、その効果は大型交通量のピークタイムで強いことが示された。	
こちらのプログラムは、発表者の都合により、リアル開催においては発表しませんので、ご了承ください。	